

端末更新に合わせた

導入をご検討ください！



問題の

「早期発見」

児童生徒に対し

「学校全体でケア」



1年間無料！先着100校モデル校募集中

「タブレット端末が導入されたので、新しいアプリを探している」
「来年度予算に組み込めるよう、まずは検証をしてみたい」

このようなご要望にお応えいたします。まずは、1年間お試しください！

「今」ケアが必要な子どもを見逃さないための主な機能！

- 1** ところと体の様子
午前・午後にかけてところと体の様子を入力
- 2** 聞いてほしい
4つの項目から相談内容と聞いてほしい先生を指定
- 3** 月次一覧表
児童生徒自身が自分の月次入力内容を振り返り
- 4** 共有設定
聞いてほしいの共有を自動共有させる人を指定
- 5** 座席表
座席表形式で児童生徒の入力内容を確認
- 6** 一覧表
一覧表形式で児童生徒の入力内容を確認
- 7** 対応状況
児童生徒の入力内容を確認することが可能
- 8** グラフ
ところの様子の変化をグラフで確認



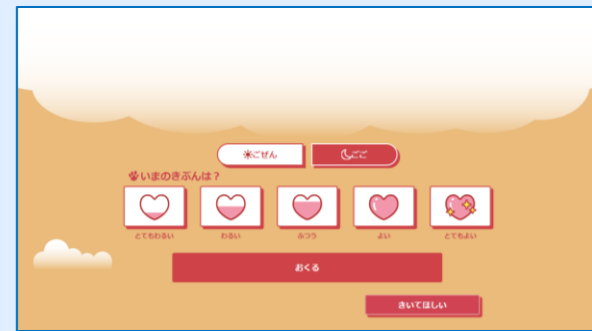
子どもたちが日々「ところ」と「体」の様子を入力することで、小さな変化に気づくことができ、声掛けのキッカケを提供したいという想いで開発されたシステムです。

こどもたちの小さなSOSが
座席表や一覧表で見える化



朝と帰りの会におけるこころと体の様子を可視化

「今のたいちょうは？」



「いまのきぶんは？」

「先生にきいてほしいな」



学年・学級のこころの様子を確認し、教育相談を実施。必要に応じて関係機関へ連携を図る。

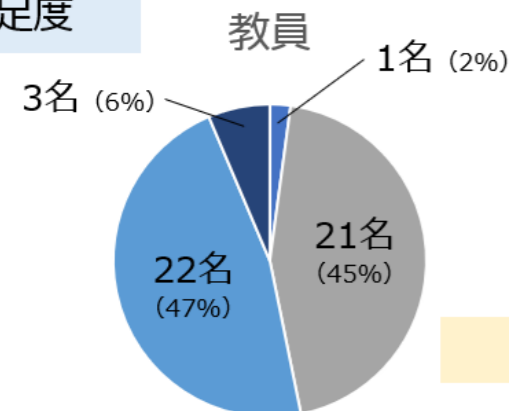
学級のこころの様子を確認。「きいてほしい」に対する聞き取りや、注意深い観察・声掛け等を実施。

クリックひとつでいまの状態を伝える

参考資料 「ココタン」実証校の声

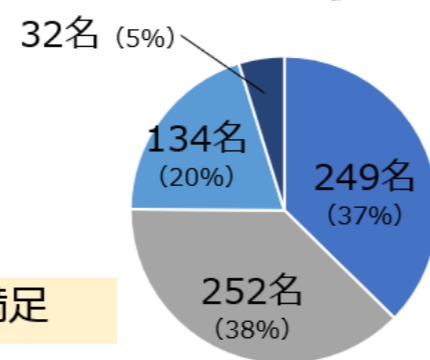
アンケート総数：実証校（小学校）の教員 47 名、児童 667 名によるものです

満足度



9割以上が満足

児童生徒



ココタンを使用して効果があった点

- いままで気づかなかった児童生徒の変化に気づけた (13件)
- 複数の先生で情報を共有し対応することができた (8件)
- 要フォローを必要としている児童生徒がわかり、早期の声掛けに繋がった (6件)
- 自分の心と体の様子がわかるようになった (185件)
- 朝と夕方に入力することで一日を振り返ることができた (86件)

「きいてほしい」のよかったところ

- 自分から言い出しにくい時に先生から声をかけてもらった (5件)
- 先生に言えなかったことが言いやすくなった。 (5件)
- 困ったときにきいてほしい先生に聞いて、もらった (3件)

児童生徒の傾向と実態把握

学校風土の調査に最適

児童生徒アセスメントシステム

児童生徒アセスメントシステムとは

データの利活用により、学校風土の「見える化」を支援することを目的として開発されたシステムです。

アンケートや非認知ゲームから得られる情報を分析し、児童生徒の抱える「いじめ」や「不登校」に関わる潜在的な問題を「見える化」することで、問題行動に対する予防教育や生徒指導に活用できるデータを教員へ提供し、学校風土の「見える化」に貢献します。

児童生徒が実施

ことばの分類ゲーム

ことばの分類ゲームでは、まん中の言葉を「犯罪や非行」か「快」もしくは「不快」のどちらかにグループ分けするゲームです。決められた時間でできるだけたくさんのことばをグループ分けします。

「ひあそび」

犯罪や非行
快

不快

1 / 40

「さいがい」

快

犯罪や非行
不快

1 / 40

アンケート

ことばの分類ゲームの次に児童生徒はアンケートに答えます。それぞれの質問にあてはまるか回答を選択します。アンケートは11項目あります。

1. まわりに親切な人が多い

- まったくあてはまらない
- あまりあてはまらない
- よくあてはまる
- とてもよくあてはまる

1. まわりに親切な人が多い

- まったくあてはまらない
- あまりあてはまらない
- よくあてはまる
- とてもよくあてはまる

学校・教職員が実施

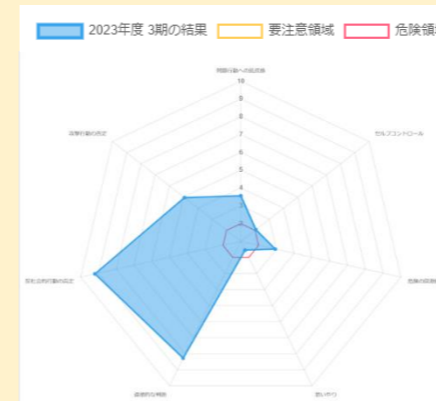
学級一覧表（個人詳細）

学級一覧 | 学級全体 | チャート | アドバイス

他校も含めて他の子どもと比較した結果。「○」は極めて良好、「○」は良好、「-」は平均、「△」は要注意、「×」は危険な状態の子どもをあらわします。

出席番号	氏名	期	内面の問題							環境の問題							全学年平均	23年度3期平均	22年度3期平均	21年度3期平均	20年度3期平均					
			出席番号への非認知	セルフコントロール	危険な回避傾向	思いやり	道徳的規範	反社会的規範の否定	攻撃行動の否定	内面の問題の安定性	保護者	教師	友人	地域	環境の問題の安定性											
1	検証 太郎	3期	△	△	-	-	×	×	-	4	-	×	-	×	○	-	△	×	-	-	4	8	0	0	0	0
2	検証 花子	3期	×	-	△	×	△	×	×	6	△	△	-	×	△	△	△	×	-	△	8	14	0	0	0	0

学級チャート



学級へのアドバイス

2023年度 3期

1.1 学級全体指導への具体的なアドバイス

表面的にはわかりにくいですが、無意識的な規範意識の低い（反社会性の高い）子どもが多くいます。根気や忍耐力、感情の抑制能力の弱い子どもが多くいます。忍耐を価値づけるような指導が必要です。強い刺激を求める子どもが多くいます。刺激に固執させない配慮が必要です。

仲間の悲しみや辛さに共感できない子・道徳的な判断を軽視して自分勝手な行動を行いやすい子・非行行動のメリットを継続的に子どもに浸透させる指導が必要です。クラスのなかで、反社会的行動にあたたく子どもに接する養育が不足している保護者・子どもを心理的にコントロールしようとする傾向を教えてください。また、保護者懇談会を利用して適切なしつけの仕方への意識を高めるなどの工夫が必要です。

友人との良好な関係が不足している・友人との仲が悪いなど、友人関係をうまく築けていない子どもが地域住民どうしのまとまりや信頼関係が不足していると感じている子どもが多くいます。地域の人々が

結果を「児童の内面の問題」「環境の問題」の2種類に振分け、各問題に詳細な分析項目を設定しており、「児童の内面に問題が生じているのはどんな環境が影響しているのか」といった「実態+要因」にまで踏み込んだ分析結果のフィードバックを実現しています。

児童生徒アセスメントシステムの特徴



児童生徒の実態と傾向を把握

児童生徒が行う「アンケート」と「言葉の分類ゲーム」の結果を経年で蓄積することで、現在の状態と過去からの変容を確認でき、実態に沿った緻密な傾向把握が可能です。



内面と環境の2つから把握

アセスメント結果は児童生徒の「内面の問題」と「環境の問題」に分けて確認ができます。それぞれの項目に応じてアセスメント後の指導が可能です。



具体的な課題解決までサポート

児童生徒の個票以外に「クラス全体」のレーダーチャートや「学級全体指導」への具体的アドバイスや「指導の参考」となる実践プログラム例などを提示して、課題の解決までサポートが可能です。

児童生徒アセスメントシステムでできること



教育委員会

- 自治体内の実施状況確認
- 自治体内学校の解析結果確認



学校・教職員

- 学校のアセスメント管理
- 学校内のアセスメント解析結果確認



児童・生徒

- 言葉の分類ゲーム
- アンケート回答

詳しい説明のご要望や導入に向けてのご相談はご連絡ください。

株式会社文溪堂 文教ソリューション部 TEL:03-5976-1313

監修者のご紹介

岐阜大学 大学院教育学研究科

吉澤 寛之 教授



1971年岐阜県に生まれる。2006年名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程修了。現在、岐阜大学大学院教育学研究科教授と兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科教授を兼任する。

システム開発の理由と想い

いじめなどの問題行動や不登校は全国的に増加の一途をたどっており、その背景には**子どもの心理面の不安定さ**があります。こうした心理面の不安定さには、友人や教師、家族を中心とした**周囲の人との関係**が影響するとされています。新型コロナウイルス対策の長期自宅待機などの影響により、人間関係は希薄化し、子どもの心理面はさらに不安定になっていることが指摘されています。学校が、こうした子どもを取り巻く困難さを、悪化する前からアセスメントにより**未然に把握**し、提供されるアドバイスに基づいて支援することで、幸せな学校生活をおくるための手助けとして、このアセスメントシステムは開発されました。

システムの特徴は？

このアセスメントは従来のアセスメントにはない2つの特色があります。1つ目は問題行動や不登校と密接に関連する規範意識や共感性、自制心などの**非認知能力を把握**でき、学校における教育でこれらの能力を高められるきっかけになるという点があります。2つ目は**非認知能力の向上をさまたげている子どもの人間関係を把握**して、それを念頭に置いた子どもへの支援を学校がしやすくなるという点があります。教員の多忙化や若手教員の増加により子どもに十分な支援をする余裕が学校になくなっていましたが、このアセスメントには、科学的エビデンス（根拠）にもとづく有益な支援の情報を提供することで、教師の子ども支援を支えられるメリットがあります。

システムを利用した学校への願い

不登校の子どもやいじめなどの被害にあう子どもだけではなく、加害をする側の子どもも、**ある意味被害者**だと私は考えています。不安定な家庭に育ち、学校で輝けるような体験がないことで、心理面が不安定になり、そのストレスが仲間にネガティブな行動をすることへつながっている例も多くあります。学校の先生方には、このアセスメントシステムから提供される情報を**子ども支援に役立つ「引き出し」**としてとらえていただき、その情報が子どもの出すサインと一致したときに、自信をもって学級支援や個別支援に活用いただければと思います。このシステムが被害者になる子どもをゼロにするための一助となることを祈っています。